

## ■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞

富田のコートハウス  
大丸心齋橋店本館  
三栄建設 鉄構事業本部新事務所  
みんか 2020  
台地の FORTE

大西憲司  
岡田泰典・児玉謙・木村秀男・松本伸洋・池田猛・戸田忠秀・木全瑛二  
瀬山充博・小幡剛也・田中盛志・大野正人・内山元希・世利公一・小玉直史  
興津俊宏  
佐藤達保

## ■渡辺節賞部門 渡辺節賞

### 趣旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大である。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

### 募集範囲

2016年1月1日から2021年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物

- \* 建築確認申請不要物件は完了検査済証不要
- \* 竣工年月日は工事完了時

### ●大阪府知事賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない  
建築位置：近畿二府四県  
応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者

### ●渡辺節賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない  
建築位置：近畿二府四県  
応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者  
完了検査済証発行日現在 39歳以下

### 審査委員会

委員長 長坂 大 (京都工芸繊維大学教授)  
委員 植野基一 (大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室室長)  
※50音順  
荻原廣高 (神戸芸術工科大学准教授)  
中嶋節子 (京都大学大学院教授)  
満田衛資 (京都工芸繊維大学教授)

### 審査

応募数 大阪府知事賞部門 34点  
渡辺節賞部門 11点

審査委員会 4回

### ●第1次審査

2月14日 書類・図面、写真によって、大阪府知事賞部門9点、渡辺節賞部門4点を選考

### ●第2次審査

3月4日、3月10日 第1次審査通過作品について現地審査を2日間実施

### ●最終審査

3月10日 第2次審査終了後に実施  
大阪府知事賞部門：大阪府知事賞3点、  
渡辺節賞部門：渡辺節賞2点を選出

### 表彰式

開催日 令和4年5月18日(水)  
会場 KKR ホテル大阪  
(本会定時総会式典席上)

### 審査経過並びに総評



審査委員長  
長坂 大

今年も新型コロナウイルス感染中での審査となり、一次審査はオンライン形式としたが、二次審査は現地審査を行って入選作を決定した。応募数は「大阪府知事賞」34点、「渡辺節賞」11点であった。2月14日の一次審査で、現地審査対象作品を、それぞれ9点と4点選抜し、3月4日と10日の2日間で現地審査を行った。現地審査終了後の最終審査会にて、知事賞対象作品3点、渡辺節賞対象作品

2点を決定した。今年は現地を見たいと思う作品が多く、全体的に好印象であったが、その一方で作品評価は拮抗していて、優秀案を決定するには十分な議論が必要であった。

「三栄建設鉄構事業本部新事務所」は、現地を見た後審査委員の印象が好転した作品である。ダイナミックな空間構成と構造の積極的な試みが、ゆったりとしたスケールで実現しており、鉄骨加工業を営む事業主の技術的可能性を試みる場として素直に受け入れられる。広い工場敷地全体に対する90mのファサードにも配置計画的な説得力がある。「富田のコートハウス」は密集市街地の旗竿敷地を、コートハウスの手法を用いて豊かな居住空間とした作品である。洗練された細部による、多様な屋内と庭の関係が見られ、設計者の工夫によって敷地条件が

好転することをよく示している。「大丸心齋橋店本館」は、旧本館のファサードを高度な技術を駆使して保存し、新しいボリュームとともに再生させた作品である。保存再生のために割かれた社会的、経済的、技術的エネルギーに敬意を表したい。「台地の FORTE」は、擁壁を契機としたアイデアが明快な作品である。台地内に相当する1階と、開けた眺望を生かした2階とのコントラストが魅力的な住宅となっている。「みんか 2020」は、考え抜かれた断面構成に特徴がある。外観からは単純に見える内部空間に、様々な高さの床が設定され、小さな住宅ながら居住者の多様な活動が期待できる。

以下、現地審査をした中で惜しくも入選に至らなかった作品について記しておくことにする。「ACADEMIC-ARK@OTEMON GAKUIN UNIVERSITY」は、こ

れだけの規模の大学施設を、特徴的な物体としてまとめきった設計者の力量を十分評価したい。しかし、学生や教職員が長時間過ごす屋内空間としてはやはり全体的に単調だと思う。明快な「全体」を損なわない多様な「部分」が必要であろう。「ユニゾン大阪事業所」は、コミュニティスペースの空間に好感を持った。建材メーカーである建主の製品をふんだんに用いた内外の床材構成も、商品陳列の域を超えて楽しい空間造形となっている。ただ、中庭まわりの事務室・コミュニティスペース・休憩室の構成にはもう少し提案がありそうに思った。「京都府茶業研究所」は、すっきりとした中庭型プランとシンプルな立面が周囲の自然と美しいコントラストを描いていて好感が持てる。しかし、その中庭の使い方や見え方について、より踏み込んだ提案が必要だと感じた。また背後の茶畑との関係についても積極的な提案があり得たように思う。「イチネングループ本

社ビル」は、天空率を意識して生まれた断面構成に魅力のある作品である。セットバック替え階の7階屋上庭園は、社員や来客のための快適な空間となっている。ただ、ファサードを決定づける特注ルーバーが、近隣マンションとの視線関係を解決する遮蔽スクリーンとして利用者に満足されておらず、すべての階でブラインドを下げた状態となっていたのは大変残念であった。建築のファサード、窓、人々の眺望、視線のコミュニケーション。建築の表層のありかたは、建築の本質的話題だと思う。「タクマビル新館(研修センター)」は、木造架構への取り組みの姿勢が明快で、ダブルスキンの立面もすっきりとまとめられている。ただ、木を使った構造と素材がテーマであるからには、コアまわりに化粧としてCLTパネルを使うのは避け、コアの構造が新しいインテリアの契機とならなかつたらうか。「日本圧着端子製造 大阪技術セ

ンター別館」は、ユニークな形の増殖可能なユニット魅力的で、施工条件の制約に対する構法的な解決案としても優れていた。ただ、研究施設として利用状況と内部空間の大きさの関係にはやや無理があるように思われた。

この審査期間中、ロシアのウクライナ侵攻は激しさを増していた。私たちが建築や都市の可能性について語り、日常生活の豊かさについて議論している時に、ウクライナでは建築や都市が破壊され、人々の日常が、命が奪われ続けていた。建築は人を殺すためではなく、幸福にするためにつくられるものだ。平和な場所では、日常生活の豊かさを追求し、建築を通して多様な試みが可能であることを痛感した。建築は人間の生存に関わるものであることを忘れてはならないし、同時に人々の日常を彩るものであってほしいとつくづく思う。



■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 富田のコートハウス  
設計者 大西憲司 (大西憲司設計工房)



大西憲司  
1948年8月生まれ  
1971年 近畿大学理工学部建築学科卒業  
1971年～ 清水和弥設計事務所  
1983年～ オーク建築研究所  
1998年 大西憲司設計工房開設

【主な建築作品と受賞歴】

- 御領の家 2002年 大阪建築コンクール/大阪府知事賞  
2004年 大阪府まちなみ賞/大阪府知事賞
- 戸建の木の集合住宅 2005年 大阪建築コンクール/大阪府知事賞  
2006年 大阪府まちなみ賞/奨励賞
- GARDEN PLACE TSURUMI  
2014年 第3回大阪みどりのまちづくり賞/奨励賞  
第27回大阪市ハウジングデザイン賞/大阪市ハウジングデザイン賞

建築位置／大阪府高槻市	構造／木造
建物用途／戸建住宅	階数／地上2階
建築主／前島裕紀・前島紗也佳	敷地面積／191.47㎡
施工者／西友建設株式会社	建築面積／88.25㎡
竣工年月／2020年11月	延床面積／145.65㎡

撮影 福澤昭嘉

〈審査講評〉戸建住宅に囲まれた旗竿敷地に立つコートハウスである。敷地周囲に張り巡らせた塀の圧迫感を感じさせないよう2階に家族団らんの場となるLDKを配置、1階のホールや和室などにおいても、東庭・中庭からの採光確保だけでなく、居場所ごとに異なる外部とのつながりが、快適な住空間を創り出している。また、軒高まで達するシルバーのガルバリウム鋼板の波板塀も主張が強すぎず、適度な光の反射が心地よい空間の演出に寄与している。(審査委員 植野基一)

## ■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 大丸心齋橋店本館

設計者 岡田泰典・児玉謙・木村秀男（株式会社日建設計）、松本伸洋・池田猛・戸田忠秀・木全瑛二（株式会社竹中工務店）



岡田泰典  
1966年1月生まれ  
1988年3月 京都大学  
工学部建築学科卒業  
1990年8月 パリ 建築  
大学ラヴィレット校  
1992年3月 京都大学  
工学研究科建築学専  
攻修士課程修了

1992年4月 株式会社日建設計入社／現在、  
同社設計部門タイクターアーキテクト



松本伸洋  
1967年1月生まれ  
1985年4月 京都大学  
工学部建築学科入学  
1989年3月 京都大学  
工学部建築学科卒業  
1992年3月 京都大学  
大学院工学研究科建  
築学専攻修了

1992年4月 株式会社竹中工務店入社／現  
在、同社設計部部長



児玉謙  
1963年5月生まれ  
1986年3月 京都大学  
工学部建築学科卒業  
1988年3月 京都大学  
工学研究科建築学専  
攻修士課程修了  
1988年4月 株式会社  
日建設計入社／現在、  
同社取締役常務執行

役員設計部門統括



池田猛  
1966年11月生まれ  
1987年9月 大阪府立大  
学工学部船舶工学科  
中途退学  
1992年3月 京都大学  
工学部建築学科卒業  
1992年4月 株式会社  
竹中工務店入社／現  
在、同社設計部チーフ  
アーキテクト



木村秀男  
1983年11月生まれ  
2006年3月 和歌山大学  
システム工学部環境  
システム学科卒業  
2008年3月 和歌山大学  
システム工学研究科  
システム工学専攻修  
士課程修了  
2008年4月 株式会  
社日建設計入社／現  
在、同社設計部チーフ  
アーキテクト

同社設計部門プロジェクトアーキテクト



戸田忠秀  
1979年6月生まれ  
2002年3月 京都大学  
工学部建築学科卒業  
2004年3月 京都大学  
大学院工学研究科建  
築学専攻卒業  
2004年4月 株式会  
社竹中工務店入社／  
現在、同社設計部  
チーフアーキテクト



木全瑛二  
1987年10月生まれ  
2010年3月 名古屋工業  
大学工学部建築・デ  
ザイン工学科卒業  
2012年3月 名古屋工  
業大学社会工学専攻  
修了  
2012年4月 株式会  
社竹中工務店入社／  
現在、同社設計部  
主任

建築位置／大阪市中央区  
建物用途／百貨店  
建築主／株式会社大丸松坂屋百貨店  
施工者／株式会社竹中工務店  
竣工年月／2020年9月  
構造／SRC造・S造  
階数／地上11階、地下3階、PH1階  
敷地面積／10,755.72㎡（北館・道路を含む）

建築面積／5,631.51㎡  
延床面積／66,367.87㎡

撮影 株式会社竹中工務店

〈審査講評〉御堂筋の顔として永く愛されてきた大丸心齋橋店の建て替え工事である。W.M. ヴォーリズによって設計された旧館の御堂筋側ファサードと内装の一部ほかを保存し、高層化された。優れた建築と景観を継承するための多大な努力に敬意を表したい。加えて地下通路や地下鉄駅前広場、大通寺通の「光のゲート」の整備など、建物のみならず地域の回遊性にぎわいへの貢献が高く評価された。

（審査委員 中嶋節子）



## ■渡辺節賞部門 渡辺節賞 みんな2020

設計者 興津俊宏



興津俊宏  
1981年6月生まれ  
2000年4月 広島大学工学部第四類入学  
2004年3月 同上卒業  
2004年4月 広島大学大学院工学研究科入学  
2006年3月 同上修了  
2006年4月 株式会社竹中工務店入社  
現在、同社設計部シニアチーフアーキテクト

〔主な建築作品と受賞歴〕

- みんな2013(2013):  
住まいの環境デザインアワード2014住空間デザイン優秀賞
- 第31回日新工業建築設計競技二等(2004)

建築位置／大阪市阿倍野区  
建物用途／戸建住宅  
建築主／興津俊宏  
施工者／空工舎  
竣工年月／2020年7月  
構造／木造  
階数／地上2階  
敷地面積／112.31㎡  
建築面積／44.88㎡  
延床面積／89.76㎡

撮影 母倉知樹

〈審査講評〉大屋根が2階をくるんだような外観と、これによって低く下げた軒が、路地から軒下、土間、そして屋内まで連続した空間性を生み出している。さらに屋内では、家族の集まる1階と、スキップフロアにより様々な居場所が現れる2階にいたるまで、空間の連続性と領域性が巧みに操作されている。この空間性を利用した暖気循環の仕組みや、さまざまな手仕事みせる温もりも加わり、屋内外でのいきいきとした生活を支えている。

（審査委員 荻原廣高）

## ■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 三栄建設 鉄構事業本部新事務所

設計者 瀬山充博・小幡剛也・田中盛志・大野正人・内山元希・世利公一・小玉直史（株式会社竹中工務店）



建築位置／大阪市大正区  
建物用途／事務所  
建築主／株式会社三栄建設  
施工者／株式会社竹中工務店  
竣工年月／2020年10月  
構造／S造  
階数／地上3階  
敷地面積／95,156.50㎡  
建築面積／2,103.10㎡  
延床面積／4,710.55㎡

撮影 母倉知樹



瀬山充博  
1976年 大阪生まれ  
1999年 京都工業繊維大学造形工  
学科卒業  
2001年 同大学大学院修了後、竹中  
工務店設計部入社／現在、同社設  
計部シニアチーフアーキテクト



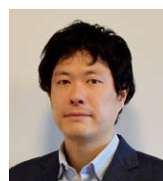
小幡剛也  
1969年 大阪生まれ  
1991年 京都大学工学部建築学科卒業  
1993年 同大学大学院修了後、竹中工  
務店設計部入社／現在、同社設計部第  
三部長／2017年より神戸大学非常勤  
講師／2020年より神戸大学客員教授



田中盛志  
1979年 東京生まれ  
2002年 東京工業大学建築学科卒業  
2003年 デルフト工科大学留学  
2005年 東京工業大学大学院修了後、  
竹中工務店設計部入社／現在、同社  
設計本部主任



大野正人  
1976年 大阪生まれ  
2000年 京都大学工学  
部建築学科卒業  
2002年 同大学大学院修  
了後、竹中工務店設計部入  
社／現在、同社設計部構造  
グループ長／博士(工学)



内山元希  
1987年 兵庫県生まれ  
2010年 京都大学工学  
部建築学科卒業  
2012年 同大学大学院  
修了後、竹中工務店  
設計部入社／現在、  
同社設計部主任



世利公一  
1975年 福岡県生まれ  
1999年 九州大学工学  
部建築学科卒業  
2001年 同大学大学院  
修了後、竹中工務店設計  
部入社／現在、同社設計  
部シニアチーフエンジニア



小玉直史  
1983年 東京生まれ  
2002年 東京理科大学  
理工学部建築学科卒業  
2008年 同大学大学院  
修了後、竹中工務店設計  
部入社／現在、同社タイ  
支店設備設計マネージャー

〈審査講評〉 建築主でもある鉄骨ファブリケータの事務所棟である。諸機能を立体ボロノイ分割して空間分節する試みは、多様で心地よい空間を創造していた。一方でそのような正規直交グリッドに乗らない柱・梁・壁による構成は建設難易度を著しく高めるのだが、ここでは積極的にBIMを活用し、ディテールレベルで構造性能と意匠性を両立させると共に、道路運搬不要地の利を活かして高精度な施工を実現していた。この高い総合力がそのまま高い評価へと繋がった。（審査委員 満田衛資）

## ■渡辺節賞部門 渡辺節賞 台地のFORTE

設計者 佐藤達保



佐藤達保  
1980年7月生まれ  
2000年4月 神戸大学工学部建設学科入学  
2004年3月 同上卒業  
2004年4月 神戸大学大学院自然科学研究科建築学専攻  
2006年3月 同上修了  
2006年4月 株式会社竹中工務店設計部入社、現在に至る

〔主な建築作品と受賞歴〕

- 立体最小限家具(2010年国際デザインコンペティションプロダクト賞)
- 台地のFORTE(2018年ケイミュール施工事例コンテスト SOLID賞)

建築位置／大阪市阿倍野区  
建物用途／戸建住宅  
建築主／佐藤達保  
施工者／株式会社安井工務店  
竣工年月／2018年7月

構造／木造  
階数／地上2階  
敷地面積／185.69㎡  
建築面積／67.12㎡  
延床面積／106.30㎡

撮影 平井広行

〈審査講評〉 上町台地のエッジに建つ小住宅である。10mもの高低差のある法面上の崖ぎりぎりに建物を寄せる配置、法面をそのまま延長したかのような地中を思わせる1階、片流れの軽快な屋根の下、3方向に大きく開かれた2階の空間構成など、土地のコンテクストを素直に立ち上げた設計が清々しい。厳しい敷地条件を魅力的な場所へと転換している。エンジニアリングウッドなど合理的な材料、工法が採用される一方、厳選された原木の造作材や納まりに大工の手仕事へのこだわりが感じられる。渡辺節賞に相応しい瑞々しい建築である。（審査委員 中嶋節子）